

能登町文化財レスキュー^{ニュース}-News

第2号 発行日：令和6年4月15日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは??

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

文化財レスキュー活動報告

【4月1日～ 宮犬 弥勒院】

4月1日から宮犬の弥勒院では、ボランティア団体による文化財の救出活動がおこなわれました。同院は元旦の地震により、本堂の建物や仏像などが損傷する被害を受けています。

救出活動は、地震により倒壊してしまった本堂横の明神堂を中心に実施されました。ボランティアの方々



倒壊した弥勒院明神堂での作業風景



救出された壊れてしまった仏像



が周囲に散らばっていた瓦などの瓦礫を撤去したあと、堂の屋根に穴を開けて内部への進入を試みました。中からは、建物の倒壊に巻き込まれて損傷してしまった木造の仏像や石仏、仏具などが見つかかり、外へ運び出されました。

住職によると、この堂には、かつて松波にあった神宮寺の本尊などが安置されていたということです。住職は、「大切な仏像などを救出してもらい、大変ありがたい」と話していました。

救出された仏像などは、今後、被災した文化財を仮保管する能登町内の県有施設へ運ばれることになっています。

こんなところに古文書が！！

国や県、町が特に重要なもの（代表的なもの）を文化財として指定や登録をしていますが、文化財的価値があっても指定などを受けていない品物もたくさん存在します。そうした品物を「未指定文化財」と呼んでいます。地域の歴史や文化を知り、継承していくために欠かせない資料（史料）は、身近なところにあたりします。寺院や神社、旧家にはよくそういったものが良く残されていますが、目の前の田畑や山には昔の人々の生活の痕跡である遺跡（埋蔵文化財）が眠っていることもよくあることです。

震災を受けて未指定文化財の保護を町民のみなさんに呼びかけ、それに応じてご相談を寄せられる町民のみなさんのお宅を訪問すると、想像していない場所から資料が出てくることがあります。

よくあるのは、^{いすま}襖や屏風など、紙を何枚も貼り重ねて作られた品物の中に、古文書が下地（下張り）として使われているケースです。紙が貴重だった時代、いらなくなった文書（^{ほごし}反古紙）を再利用したもので、そうした古文書を^{したばりもんじょ}下張文書と呼んでいます。筆者は訪問先のお宅で屏風などを見つけると、破れた隙間から古文書が下張りに使われていないか必ず確認をしています。

下張文書を見つけて所有者の方にお見せすると、「こんなところに古文書があるの！」と驚かれることも度々あります。また、お茶碗を包んでいる紙に何か書いてあるということで見ると、江戸時代や近代の古文書が使われていて、筆者が驚かされたこともありました。

新聞紙を使って包装することが今でもありますから、同じような考え方といえるでしょう。そうした考えが、資料を未来に伝えるタイムカプセルとなっていたのです。



下張文書が見つかった屏風

本紙は町 HP からも見ることができます

https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872

